

学習内容報告書 フォーマット

学校名	かまいしこども園
授業者	副園長 澤田利子 すなどり舎 齋藤孝信氏

1. 単元計画

実施した活動内容に基づきご記入ください。

1-1. 単元名

サケの学習を通して育む郷土愛と釜石の DNA の継承(2年目)

1-2. 学年

年長児

1-3. 教科 (単元を実施する教科を全てお書きください)

環境(自然・知己・文化)・健康(食育・生命)

1-4. 単元の概要

身近な魚サケに触れたり親しみを持ったり、食べることでサケを取り巻く環境や海のことについて知る。
また、市内にある岩手県水産技術センターを見学し、釜石で獲れる魚を見学したり、釜石で受け継がれる漁(定置網漁)について学習し、地域の文化に興味関心を持つ。
自分たちの町の文化を知ることで郷土愛と釜石の DNA を継承する。

1-5. 単元設定の理由・ねらい

食卓に上がる身近なサケがどのようにして獲れるのか、どのように育っていくのか、なぜ海で泳いでいるのに川で育つのかなどサケの一生について学び命の尊さも学習する。
4年後に帰ってくるサケが過酷な環境で生きていることを通して、海的环境保全に対する意識も高めていく。
身近な海の興味を持ち、そこで働く漁師さんの仕事にも関心を持てるようにする。

1-6. 育みたい資質や能力、態度

自然との関わりや生命の尊重、郷土への興味・関心を持つ。
海という自然から環境問題に対する学びを得る。
地産地消や魚食普及を推進し、「いただきます」の感謝の気持ちを育む。

1-7. 単元の展開 (全 時間)

時数	学習活動・主な内容	教師の指導 / 主な評価 外部連携 / 使用教材等
2	<p>7月1日(金)</p> <p>岩手県水産技術センターにて、釜石の海にすむ魚の見学、サケのことや定置網について学ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サケの一生についての話をセンター職員に聞く。 ・実際のサケの大きさはどのくらいかな? 実際の重さと同じ重さのサケのぬいぐるみを抱いてみる。 ・釜石の海で獲れた魚が入っている水槽を見学したり質疑応答したりする。 ・漁業指導調査船「岩手丸」の見学や乗船も体験でき、海を身近に感じた一日になった。 	<p>教師の指導/サケについて園児と一緒に学ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度の年長児がサケについて学んでいたことを知っていることで、導入もしやすく、興味をもって事前の話(海のおいや海について知っていること、海の生き物など)をしっかりと聞くことができていた。 <p>主な評価/地球温暖化について興味を持っている子があり、海の話から温暖化の話に発展していたが、温暖化についての理解が難しいようだった。</p> <p>外部連携/岩手県水産技術センター すなどり舎 齋藤孝信氏</p>
1	<p>10月11日(火)</p> <p>かまいしこども園ホールにて</p> <p>講師を招いてサケについての学習(海洋パイオニアスクールプログラムよりスタッフの方に、オンラインで学習の様子を見てもらう)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当園の保護者でもあり、漁師の佐々木崇真氏を講師に、定置網の説明や漁業についての話をしてもらった。教材は、昨年度製作したDVDを使って、定置網での漁の様子、市場に魚が入ってくるころから競りにかけられるまでの様子を見ながら、佐々木氏、当園の職員、すなどり舎の齋藤氏の説明を交えた。 園児からは、質問が多く出た。 	<p>教師の指導/魚市場の様子を映像を見ながら説明し、子どもたちの質問にも答えた。</p> <p>主な評価/映像に実際の魚や、水揚げの様子が良く映っているので、疑似体験できた。また、本物の漁師の方の話は、園児にとってもかっこいい存在となった。</p> <p>外部連携/釜石東部漁協 漁師 佐々木崇真氏 (園の保護者)</p> <p>すなどり舎 齋藤孝信氏 岩手大学 田村直司氏 海洋パイオニアスクールプログラム 担当者</p> <p>使用教材等/昨年度製作DVD</p>
2	<p>11月24日(木)</p> <p>かまいしこども園ホールにて</p> <p>サケの一生について</p> <p>サケ(メス)の解体とクッキング</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サケの一生について、岩手大学の田村直司氏による説明。 ・すなどり舎の齋藤孝信氏による、メスサケの解 	<p>教師の指導/新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、漁協女性部の方々との日程が調整できず、サケの解体はすなどり舎の齋藤氏に依頼、切り身にしたサケは当園栄養士が子どもたちと一緒に焼いて給食と一緒に提供した。</p> <p>また、サケの一生についての話は、サケが生まれた川に4年後に戻ってくること、川で生まれ海で育つ</p>

	<p>体。サケに触れ、解体を見学する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サケのクッキング 	<p>こと、サケはにおいが分かるから生まれた川に戻ってこれることなどを学習した。</p> <p>主な評価/本物のサケに触れたり、中からイクラが出てきたり、また、サケの心臓やえらなどを見ることができとても興味や関心を持っていた。</p> <p>外部連携/すなどり舎 齋藤孝信氏 岩手大学 田村直司氏</p> <p>使用教材/サケ(メス) サケの生態のスライド</p>
2	<p>12月22日(木)サケのクッキング 自分たちでメニューを考え買い出しから調理まで行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・何を作るか、それには何が必要かを子どもたちで話し合った結果、サケのおにぎりを作ること、サケだけでなく、おにぎりにあったお米をお米屋さんに聞くことなどを考えた。 <p>前日に買い出しに行き、近所の魚屋さん、お米屋さんで購入した。</p> <p>当日は、お米を研いで鍋で炊き、ホットプレートで焼いたサケは自分たちでほぐして骨を取り、ご飯と混ぜて全園児と全職員にサケおにぎりにしてふるまった。</p>	<p>教師の指導/何を作るか、それには何が必要かを考えることから子ども主体で取り組めるようにした。身近な魚の味は格別であることも知ることができた。</p> <p>主な評価/自分たちで考えることにより、より意欲的に取り組むことができた。また、地元で愛される魚は親しみもあるので、より身近に感じたようだった。サケを食べることで「いただきます」の言葉を通し命への感謝の気持ちを育むことができた。</p> <p>外部連携/仁平商店(お米) 片桐鮮魚店(サケ)</p> <p>使用教材/サケ・米</p>
2	<p>3月14日(火) サケのふ化場見学と稚魚放流</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バスで市内唐丹町にあるふ化場まで行き、サケのふ化場を見学する。 <p>エサやり体験もさせてもらい、たくさんの稚魚とエサを食べる様子も見た。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ふ化場見学後、すぐそばにある川まで行き、ふ化場、唐丹町漁協の方の協力で、稚魚を放流した。 	<p>教師の指導/事前学習として、元気よく泳ぐ稚魚の様子をよく観察することや、4年後にこの川に帰ってくることを再確認した。当日は、孵化場の水槽や川での行動には十分気を付けることを約束した。</p> <p>主な評価/やっとな稚魚の放流ができ子どもたちもとてもうれしそうだった。子どもたちからも「元気で頑張ってるね」「大きくなって帰ってきてね」「気を付けてね」などという言葉が自然と出てきたことがとても良かった。</p> <p>外部連携/ 唐丹町漁協、唐丹町漁協片岸ふ化場 尾形場長、すなどり舎齋藤孝信氏</p> <p>使用教材/バケツ</p>

2. 学習活動の実際

実施した単元中のキーとなるような時間（導入の時間・主となる活動の時間・まとめの時間など）の学習内容をご記入ください。また、複数の時間についてご記入いただける場合には、この項目をコピーして複数記入していただいて構いません。

2-1. 単元における位置づけ

単元 時間中の 時間目

※例：単元 10 時間中の 2 時間目 / 単元 15 時間中の 4, 5 時間目

2-2. 本時の目標

サケや、釜石の海について関心を持つ。

2-3. 本時の展開

主な学習活動 / 反応	教師の指導・支援 / 評価の視点（方法）
<p>○定置網や市場の映像を見ながら疑似体験 実際に釜石の海での定置網漁の様子や、市場で働く人や水揚げされる魚の様子を動画で見る。網に入る魚を力いっぱい引き上げる漁師の姿や、ベルトコンベアに次々に流れてくる魚の様子を見た。</p> <p>（園児の反応） 迫力ある映像に興味や関心が広がり、次々に質問が出た。また、働く漁師さんの様子をじっくりと見ることで、「かっこいい仕事」と感じたようだった。</p> <p>○稚魚の放流 市内のふ化場の見学、エサやり体験、川でのサケの稚魚放流を行う。 ふ化場の方の話を聞いたり、稚魚がたくさん泳ぐ姿を見たり、川に降りて自分たちで稚魚を放流した。</p> <p>（園児の反応） たくさんの稚魚が泳ぐ姿に興奮しながらもたくさんいるように見えても、大きくなって帰ってくるサケは少ないこと、4年後に同じ川に戻ってくることを再確認し、子どもたちから「元気でね」「大きくなって帰ってきてね」などという愛情を持った声掛けが聞かれた。</p>	<p>・漁師の仕事、漁の様子がよくみられるように、動画を止めながら説明をする。漁師の佐々木氏や、すなどり舎の齋藤氏の説明も加える。</p> <p>・釜石の海には様々な魚がいること、魚の形や色などにも関心が持てるように伝える。</p> <p>・サケについて十分学習した後だが、事前に再確認し稚魚の放流を行う。</p> <p>・昨年度はサケの漁獲量も少なかったが、海水温の上昇で回帰率も減少し不漁になったことで、稚魚の放流ができないかもしれないと伝えていたが、地域の方の協力により実現したことへの感謝も伝える。</p>

3. 今回の活動の自己評価

昨年度に続いて2年目のサケの学習ということもあり、昨年度の年長児が学習していたことを覚えているので、興味や関心も大きかった。しかし、実際に漁をする漁師の姿や市場での様子を見たり、漁師や市場を撮影した職員の話を聞いたりすることで、子どもたちの想像も膨らみ関心が強くなって良かった。

また、稚魚を間近で見ることやエサやり体験をすることで、サケの稚魚に対する愛情や、川や海をきれいに大切にすることなども同時に学ぶことができてよかった。魚が苦手な子も、少しずつ食べるようになっていたり、どんな魚がいるかなど自ら学ぶようになっていたりした。海を守ることへの学習につながるきっかけとなり、釜石のDNAも受け継がれていくことと感じた。

事前学習や環境の問題としてSDG'sについて考える時間も持つことができたので、海に起こっている問題についても、学習の入り口として続けていく予定です。

4. 今後の課題

昨年度作成した動画を使い、これからもサケについての学習ができるようにする。
地球温暖化の問題や広くSDG'sに向けた学習も引き続き行っていく。

5. 本学習内容報告書活用にあたっての留意点

特になし

※実施した單元ごとに作成してください。

※写真、画像、図表等の使用可。必要に応じて記入欄やページ数を増やしても構いません。

※基本レイアウト

フォント：MS明朝、10.5ポイント / マージン：上下端20mm、左右端16mm

※ファイル名は「学習内容報告書_学校名」とし、複数提出する場合は学校名の後に数字を記載してください。

例：学習内容報告書_海洋市立パイオニア小学校1

※年間指導計画（年間の指導計画における単元の位置づけが分かる資料）があれば別添資料として提出してください。フォーマットの指定はありません。